

IAUD Newsletter vol.16 第10号(2024年1月号)

1. 古瀬理事長 新年のご挨拶…………… 1
2. IAUD創立20周年記念特集 未来への提言⑩山本初代会長からのお言葉…………… 2
3. CM字幕プロジェクト HP開設…………… 7
4. 国際UD研究講座 第1期受講生募集中…………… 7
5. UD検定オンライン 初級第32回開催のご案内…………… 8



一人でも多くの方が快適で暮らしやすいUD 社会へ 古瀬敏理事長 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もIAUDへのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2024年最初のNewsletterでは、古瀬敏理事長からの新年のご挨拶を掲載します。

明けましておめでとうございます。

COVID19が発生してから丸4年、インフルエンザ並みの扱いになってからは半年以上経ちますが、まちを行き来するかなりの割合の人びとがマスクをしています。

コロナはまだ怖いという意識が抜けていないうえに、インフルエンザ感染も警告されているからです。入り口に備えられていた体温計測機器はほとんど撤去されましたが、消毒液はまだ残されているところがあります(大病院ではさまざまな患者が来院するため、依然としてマスク着用が求められています)。

結果としてさまざまな活動がしにくい状態が続いており、IAUDも例外ではありません。そうした中で行われた2023年のIAUDの活動について報告します。

第一に、IAUDが任意団体として設立されてから2023年11月28日で20周年を迎えたことから、毎月発行するIAUD Newsletterではこれまで活動実績を4月号から順に紹介してきました。一覧すると、じつに多くの活動でさまざまな成果を生み出してきたといえるでしょう。

対面での活動を制約されているなかで、さほど影響を受けずに済んでいるものもあります。

IAUD国際デザイン賞は海外の専門家も審査員にお願いしていて、もともとオンラインでの審査が基本でしたから、今年度も従前どおりに審査を行いました。結果はまもなく公表されます。

UD検定についてはオンライン化したことから、初級・中級ともに順調に進んでいます。

新たに2023年度に取り組みを始めたのは、国際UD研究学院による国際UD研究講座です。始めますという広報が十分ではなかったためか、正式に受講を申し込んだのは1



古瀬敏理事長

名だけですが、オンラインで順調に進んでいます。ただ、演習の形態をどのようにしたら最大の効果があるのかについては、まだ手探りの状態です。

国際 UD 会議はいろいろ検討しておりますが、やはり COVID-19 のために残念ながら現時点では開催の目処が立っておりません。直前のご案内では参加に不都合があるのは承知しておりますので、できるだけ早めにお知らせできるように心がけていくつもりです。

以上のように、以前と比べて思うように動けていませんが、それでも協議会としてできる限りのことを続けようと考えています。

会員各位のご助言とご協力をいただきながら前に進むつもりですので、今年もよろしくお願い申し上げます。

2024年1月

一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会理事長 古瀬 敏



日本はUDで世界的に貢献できる国

IAUD創立20周年特集 未来への提言⑩山本初代会長からのお言葉



2009年10月にインタビューした際の故山本卓眞初代会長(左)と当時の成川匡文理事長

日本初のUD推進団体であるIAUDは、2023年11月28日(火)で創立20周年を迎えました。これも、当協議会の創立と発展にご尽力賜りました関係者の皆様、並びに日々の活動にご参加いただきました会員の皆様のご支援とご協力の賜物です。

創立20周年を記念して、2023年度のNewsletterでは「創立20周年記念特集 未来への提言」を連載しております。

10回目は、IAUDの創立と発展にご尽力いただき、日本のIT産業の競争力向上にも大きく貢献した、故山本卓眞・IAUD初代会長からのIAUDへの思いや経営に関してのお言葉を、過去のインタビューや講演などから抜粋して特集します。※文章中の肩書は当時のものです。



山本初代会長

UDとの関わりは寛仁親王殿下の影響

IAUD創立となったきっかけは、2002年11月に横浜で開催された日本初のUDをテーマにした国際会議「国際ユニバーサルデザイン会議2002」です。

その組織委員会会長を務めたのが、当時富士通株式会社名誉会長だった山本氏でした。

山本会長は当時を振り返り、「私がUDに関わるようになったのは、寛仁親王殿下が総裁をされていたある団体の会長を私が務めており、殿下からお声がかかったことがきっかけ。それまでUDに関しては不勉強で、それほど深い関心を持たずにいたが、殿下からお声がけいただいた後、UDのことをいろいろ調べていくうち、これは社会的にも大変いいことだと分かってきて、国際会議をやろうということになった」と述べています。

そして、「国際ユニバーサルデザイン会議2002」については、「当時は深刻な不況の真ただ中で、企業に協力をお願いするには最悪な状況。そんな中、殿下の存在自体や要所でお言葉を頂戴したことが大きな力になり、会議は国内外からの参加者に大変良い印象をもっていただき、第1回目から大成功という結果につながった」と話しています。

「国際ユニバーサルデザイン会議2002」は、「人間のために、一人一人のために～暮らしの明日を考える-まち、もの、そして情報～」をテーマに、国内外のUD専門家による講演や分科会、さらには協賛企業とデザイン関連団体によるこれまでのUD成果を紹介する展示会が行われ、5日間で世界20か国から約4,600名が参加するなど、大変成功裏に終了しました。



故寛仁親王殿下



UD2002 開会式の様子

国内最大のUD推進団体IAUD創立へ

そして、「国際ユニバーサルデザイン会議2002」の理念と成果を継承して、2003年11月28日に任意団体としてIAUDが創立されました。

総裁には故寛仁親王殿下、会長には山本氏をお迎えし、国内最大のUD推進団体として発足しました。

山本会長は創立にあたり、「日本がUDに力をいれていくことは、世界にとって意味があること。日本は人を中心においた先端的な技術によって、この分野で世界的に貢献していくことができる国だと確信している」と述べています。



IAUD 創立記者発表会での寛仁親王殿下(写真左)と山本会長

UDが世界的課題の打開策に

2006年10月には、「第2回国際ユニバーサルデザイン会議2006in京都」が国立京都国際会館で開催され、世界29か国から約14,700名の参加がありました。

テーマは「さりげなく、大胆に～使い手と作り手の対話、実践そして実現～」とし、国内外の有識者による基調講演やセッション、最新の日本のUD製品を紹介した展示会などを実施しました。

国際会議開催後、山本会長は「2002年に横浜の国際会議に集った人々が、“UDとは一人ひとりの人間性を尊重した社会環境づくり”と再認識し、さまざまな分野で活動が展開されてきた。それはある部分では実を結び、新たな課題が認識され次の取り組みが生まれるなど、上向きのスパイラルが構築された」と述べています。

さらに、「世界情勢はかつて経験したことのないスピードで不安材料が広がっており、従来の経済理論や施策だけでは解決し得ない先行き不透明な現状において、人を中心としたUDの考え方やプロセスから生み出される成果と取り組みは、それらを打開する可能性のひとつとして大きな期待を寄せている」と、UDが世界的課題の解決策になるとしています。



UD2006 開会式の様子

UD対象は製品からシステムへ

さらに、2010年10月には「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010inはままつ」がアクトシティ浜松で開催されました。

山本会長が開催前に行ったインタビュー*で、近年のUDについて、「私も目や耳など感覚が落ちてきており、切実な問題としてUDの重要性をますます実感している。それに対し、技術が進んで実現できることも広がってきた。新しい技術が多様なユーザーの可能性を広げており、今後まだまだ実現できることが増えていく」と話しています。



インタビューでの山本会長

また、UDの可能性については、「高齢者をはじめUDの対象がさらに広がっている。例えば介護ロボット。今後は人間とのインタラクションを含めて、製品単体からシステムで考えることがさらに重要になってくる。街でも電動車いすを見かけるようになったが、センサーを使用して危険を回避するなど、UD視点を入れて実現できることがまだまだありそう」としています。

さらに、「高齢者にとって、楽になればそれだけで良いのではない。動けるうちはその力を維持することも重要で、過度にやり過ぎないこともUDの課題のひとつ。最良のデザインは一人ひとり異なるわけで、バリアフリー住宅の一角にトレーニングスペースをつくる、といった工夫も必要。UDは今後さらなる技術発展で将来が楽しみな領域だが、同時に長期的な視点で一人ひとりにとって本当に何が良いのか、どう感じるか、という心の問題など、難しい新たな課題も見えてきた」と、今後のUDの課題について述べています。

そして、「日本のUDは順調に普及しているが、本来のUDとは何かということが、まだまだ一般の人に伝わってない。まずそれをしっかりやっていく必要がある」と締めくくりました。

*2009年10月に行われたインタビューより山本会長のお言葉を抜粋しています。インタビュー全文を掲載したIAUD Newsletter vol.2 第8号(2009年11月号)は[こちら](#)からご覧ください。

UDによる社会の新たな発展を期待

「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010 inはままつ」は、「人と地球の未来のために～持続可能な共生社会の実現に向けて」をテーマに、小中学生対象のこどもUDコンテストや地雷除去機や発展途上国の人々を救うデザインを展示した特別企画展「世界を救うデザイン」などを実施し、世界8か国から約14,110名の参加を得ました。

この国際会議で、山本会長は当時の戸田一雄・IAUD顧問(元松下電器株式会社副社長)と成川匡文・IAUD理事長(東電環境エンジニアリング株式会社営業本部長)と共に、セッション「経営におけるUD」*に登壇しました。

このセッションでは、日本の製造業、特にデザインを活用した輸出産業は今後どうあるべきか、経営の立場からはどのように対処していくのか、経営者の果たすべき役割やUDの考え方との関わりについて議論が行われました。

まず、山本会長は、「デザイナーはデザインだけでなく、技術にも強烈な刺激を与え、役に立つ技術開発を促してほしい。そして、UDはデザインだけでなく、もっと広く、材料開発などにも関わり、その関係者とパイプをもっといただきたい」と述べました。

さらに、UDに期待することとして、「障害者が収入や職場を増やせるために、UDと技術開発があいまって成果を上げてくれれば望外の喜び。社会のデザインをする際、いかに真剣にかつ深く、広く、考えるべきかという教訓がある。そのことにより、障害者の職域拡大や収入増だけでなく、新しい職場開拓につながることを期待したい」と話しました。

また、近年増加している高齢者の交通事故に関しては、「福岡県知事が高齢者用自動車の開発を言い出し、35道府県がそのプロジェクトに参加した。ここに、技術開発とUD配慮という両輪が強く結びついた、大きな活動分野がある。高齢者になったら危ないから運転するな、というのが一つの考えだが、一方で高齢者ほど自動車は必要、という切実な声がある」とし、「すべてをバリアフリーにすると、老人が警戒心、注意力が無くなりかえって危ない。適切なバリアはあるべきだが、難しいのはバリアは人によって程度が異なること。同じ人間でも歳とともにバリアは変わるので、バリアフリーデザインも何段階かに分けて標準化するべき」と提言しています。

このセッションでは他にも、戸田氏と成川氏からUDはデザインマネジメントの域を超え、重要な経営課題であるとの認識のもと、経営革新および産業活性化のためにどのような問題があり、どう解決していくべきか、など大変有意義なお話がありました。

さらに、ソーシャルビジネスや社会的責任の観点から見た経営のあり方や、今後の日本や世界の平和的発展に資するための方向性を探る議論も交わされました。

*山本会長が登壇した「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010 inはままつ」のセッション「経営におけるUD」は、販売中の「国際UD会議 予稿集・論文集・講演集 2002～2019年」に収録されています。詳細及び購入ご希望の方は[こちら](#)をご覧ください。



セッション「経営におけるUD」



登壇した山本会長

社会システムを変革するデザインが必要

「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010 inはままつ」開催後、今後の IAUD の方向性を探るため、2011月1月に山本会長へのインタビュー※が行われました。

山本会長は国際会議を振り返り、「経済環境をはじめ揺れ動く社会情勢のなか、ここ4年間におけるUDを取り巻く環境変化は想像以上に大きく、サステナビリティやグローバル化の問題と深く関係づけて取り組む必要性を改めて強く感じさせられた」と述べました。



また、登壇したセッションでも取り上げられた高齢者の運転に インタビューに応じる山本会長 関しては、「日々の買い物や病院通いなどが困難になる高齢者こそ、車が必要。高齢者の免許を取り上げるのではなく、より安全な車や移動手段を考えるという方向へ向かうべき」としました。

さらに、「例えば高齢者が病院へ行くのではなく、逆に医者が巡回する社会システムをつくるなど、これまでのデザインとは違った新しい発想が必要。個別の製品やサービスだけでなく、これからは社会システムを変革するような領域にも踏み込んでいく時代になる」と話しました。

※山本会長のお言葉は、2011年1月に行われたインタビューから抜粋しています。インタビュー全文を掲載したIAUD Newsletter vol.3 第10号(2011年1月号)は[こちら](#)からご覧ください。

日本のUDをより世界に発信

2011年3月に開催された「2010年度成果報告会」で、山本会長は開会のご挨拶で、「殿下は、『もっと積極的に日本のUDを世界に発信した方が良いだろう』、とおっしゃっていた。IAUD は今後、情報発信だけでなく、具体的な製品やサービスについてもグローバル展開し、世界の人の暮らしの中に浸透させていくことは、社会貢献であると同時に、日本経済のさらなる発展にも重要。それが、これからの日本の広い意味の文化発信、クールジャパンの1つの大事な要素になる」と述べました。



ご挨拶される山本会長

日本の産業界に偉業

山本会長は2012年1月にご逝去されるまで IAUD 会長を務められ、さらには2002年、2006年、2010年に開催された国際会議の組織委員会会長も務めていただくなど、長年にわたり IAUD の活動に多大なるご協力をいただきました。

陸軍特別攻撃隊として出撃の日に終戦を迎え、旧軍が電子戦に弱かった反省から戦後はドイツさえ成し得なかったコンピューター産業の育成に心血を注ぎ、やがて世界一の演算速度を誇る国産コンピューターの製造を可能にするなど、日本の産業界に与えた影響は計り知れない功績であり、比類なき偉業でした。

IAUD 会長としても会員各社の経営トップの方々とは気さくに会話を交わしつつ、時おり独特の語り口で経営の奥義を伝えておられました。



誰もが同じ情報を得られる社会を目指して 活動報告:研究部会 CM 字幕プロジェクト HP 開設



字幕付き CM 普及を目的に活動している研究部会 CM 字幕プロジェクトは、この度ホームページを開設しました。

<https://www.iaud.net/cmjimaku/>

今後、放送中の CM 字幕や CM 字幕に取り組む団体の紹介、海外の状況など CM 字幕に関する活動や各種情報を発信していきます。



リカレント教育や経営幹部養成プログラムに活用を 国際UD研究講座第1期受講生募集中

IAUDは「国際UD研究講座」第1期(2023年10月~2024年7月)の受講生を募集中です。

「国際UD研究講座」では、新たなUD思考を身につけるリカレント教育やリスキリングのコースを、オンラインで提供します。多様なUD領域の中から受講生の個性や能力に応じた選択肢を準備しており、基礎と専門のメソッドを習得できるようなカリキュラムになっています。

10月に開講していますが、終了した選択講義はオンデマンドで視聴できますので、いつでも申込みが可能です。なお、IAUD会員および学生は受講料が割引になります。

自己研修や経営幹部養成プログラムの一環としてぜひ活用いただきますよう、皆様の参加をお待ちしています。

※国際UD研究講座の詳細や募集要項は[こちら](#)をご覧ください。

※国際UD研究講座第1期シラバスは[こちら](#)をご覧ください。



在宅で好きな時にUD資格習得

UD検定オンライン 初級第32回開催のご案内

IAUDは、「UD検定初級第32回」をオンラインで開催します。

「UD検定・初級」は、UDに関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験(30分・50問)のセットです。問題は全て受講した講習内容から出題されます。

合否は検定試験終了後すぐに判定され、合格者には認定証を発行します。

「UD検定オンライン初級第32回」の申し込み受付は、1月12日(金)から2月15日(木)までです。

申し込み方法は近日中に[IAUD公式サイト](#)に公開します。この機会にぜひ、ご利用ください。

※「UD検定オンライン第1回初級」開催報告のNewsletterは[こちら](#)をご覧ください。



初級オンライン講習の画面

次号は2024年3月上旬発行予定

特集:IAUD創立20周年記念特集 未来への提言①

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 事務局

<http://www.iaud.net/>

e-mail:info@iaud.net

Instagram: [iaud.info](#)

LinkedIn: [international association for universal design](#)